

Coastal and Oceanic Research Group

coast.dce

Google 検索

I'm Feeling Lucky

<http://coast.dce.kobe-u.ac.jp/>

■ 概要

指導教員：

内山雄介准教授 (1W-308)
uchiyaama@harbor.kobe-u.ac.jp

学生：M2 … 3名
M1 … 2名

一言で言うと「海」の研究室です。世界標準の領域海洋循環モデル(ROMS)という強力なツールを駆使して、世界最高水準の海洋モデリングを行っています。海岸工学、地球物理学、数値流体力学などの知識をベースに海岸や海洋で生じる現象に対し科学的にアプローチし、各種現象の理解を深め、海洋を中心とした地球環境問題や沿岸海域環境・防災問題などの工学的課題の解決に向けた基礎および応用研究を行っています。

どんな感じの研究室？

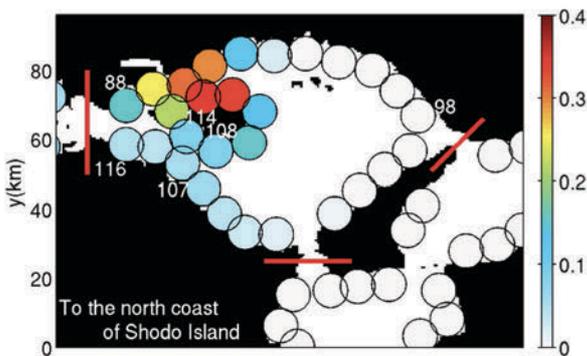
内山研は**研究志向**の集団です。研究を頑張っただけで成果を出した人には国内外での学会発表や研究インターシップのチャンスが与えられます。2013年度は国際会議などでの英語発表が17件(所属学生による発表はそのうち7件)、英語ジャーナル論文を2編発表しました。国内学会での発表も24件(うち所属学生発表は20件)あり、その他日本語論文を多数発表しました。

平成25年度の研究テーマの例 ※平成26年度は以下のようなテーマを考えていますが、独自のテーマも歓迎します

- 沖縄リーフ海岸周辺における流れと珊瑚幼生の分散
- 太平洋沿岸海域における流動および物質循環
- 日本海全域の海洋構造とサブメソスケールダイナミクス
- 海洋-大気間 CO₂ フラックスと海洋酸性化に関する全球評価
- 台風通過時における海洋 Stokes-Ekman 層オーバーラップ領域における境界層の力学構造
- 福島第一原発を放出源とする放射性セシウムの沿岸域での挙動：陸域から海域への移行過程
- 瀬戸内海全域を対象とした広域流動と海洋生物コネクティビティ
- 米国南カリフォルニア湾における海洋循環と砕波帯-陸棚域相互作用

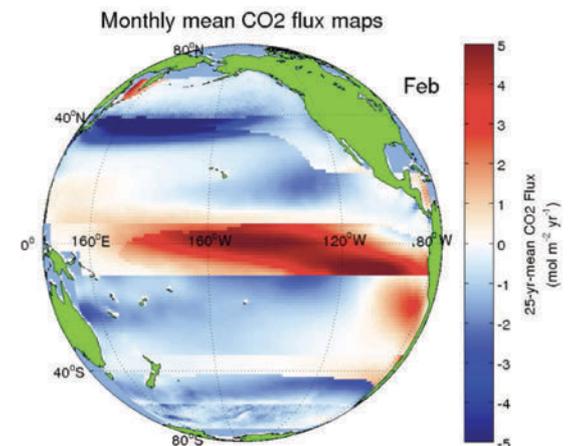
求められる人材

まず第一に海が好きで、ここは海の研究室ですので必須でしょう。地球科学や地球環境問題に興味がある人、数学や流体力学に興味がある人は大歓迎です。研究室所属以前の学部や専攻、科目の単位の有無や得意不得意は重要視しません。ただ、流体力学や海岸工学については、実際に研究を進めるにあたって役に立ちますので、関連する科目の講義を受けているなど、ある程度の素養があった方が望ましいです。新しいことにチャレンジすることに躊躇しない性格の人は特に歓迎します。また、多くの時間は机やコンピュータに向かってのデスクワークになりますので、コンピュータやシミュレーションに興味のある人が望ましいでしょう。これらに関しては、ゼミや個別指導を通じてきめ細かな指導をしますので、経験は不問です。安心して下さい。また、学内外(海外を含む)の研究チームとの連携を積極的に進めていきますので、テーマによってはチームとして行動することが求められます。プレゼン・コミュニケーションスキルを高めたい人、英語力をブラッシュアップしたい人、検討の価値ありです。エンジニアとしての素養をきちんと身につけてもらうためにも、学部生には大学院への進学を推奨します。院試の受験が必要な人には、試験勉強を最優先するよう研究スケジュールに配慮します。



←小豆島北岸に着底したマコガレイの幼稚仔に対する source strength (幼稚仔期間 30 日経過後)

研究テーマ
瀬戸内海全域を対象とした広域流動と海洋生物コネクティビティ



↑ 1985年～2008年間の太平洋全域における CO₂ フラックス 2月平均値

研究テーマ
海洋-大気間 CO₂ フラックスと海洋酸性化に関する全球評価

■ 訪問可能日時

内山 (1W-308, 事前予約を推奨します)
3/17 (月) ~ 3/19 (水) : 午前9:00~午後6:00
3/24 (月) : 午後1:30~6:00

学生部屋 (1W-205, 予約不要)
随時対応 (午後を推奨します)

制作: 山西・小裕・松山